

佳作

心のつながりプロジェクト

山形県 山形市立滝山小学校六年 手塚翔己

コロナが流行し、あたり前にできていたことができないう生活になってから、二年半が過ぎようとしています。僕がコロナ生活の中で一番考えさせられたのは、人との付き合い方です。

最初は、コロナを自分には関係のない事のように思っていました。自分の事として考えるきっかけになったのは、脳こうそくの病気を持つ祖父が入院してからでした。

「面会謝絶でおいちゃんに会えなくなっちゃよ。」

悲しそうに話す母の言葉を聞いて、突然の事におどろき、とまどいました。今まで当たり前のように会えていた祖父と会えなくなる事は、僕にとってとてもつらく悲しいことでした。どうしたら祖父と家族の心をつなぐことができるのか、自分なりに考えてみることにしました。そして思いついたのが、定

期的に祖父に手紙と手作りの写真アルバムの送ることにしました。入院生活の中で祖父がいつでも好きな時に見られるようにしたい。そして、一人でさみしい思いをしている祖父に、僕や家族の思いが伝わるようにしたい。手紙と手作りアルバムはその思いにぴったりだと思いました。手紙では学校生活の事を話し、小さな絵を描きました。いつもの生活を写真に撮り、喜んでくれるように心をこめて作成しました。僕がその手紙を毎月作り始めると、祖父も大喜んでくれて、僕たちの様子を感じてくれていたようでした。

「ありがたい、毎回楽しみにしているよ。」

祖父の気持ちを知ることができて、祖父の笑顔が頭にかび、僕もとてもうれしくなりました。

たとえ、直接会って話をしたり、触れ合ったりできなくても、おたがいに心のつながりを感じるようになっていたと思います。祖父は、残念ながら昨年病院で亡くなってしまいましたが、その手紙を大事に持っていてくれたことを聞き、感動して心が熱くなりました。この事は温かい思い出として今でも僕の心に残っています。

コロナは、人となりの付き合い方を大きく変えま

した。できない事が多くなり、コミュニケーションをとる機会も少なくなりました。時には心が苦しくなる時もありましたが、大変な時だからこそ、相手の事を思いやることの大切さを感じました。この気持ちには、今までの生活を続けていたら、当たり前のように、考えることもありませんでした。自分の成長にもつながったと思います。

一人一人が、今まで以上に思いやりと感情の心を持つことができれば、その人に合ったコミュニケーションの取り方を考えるきっかけにもなります。心と心がつながることで、温かく、すてきな未来につながっていくと思えました。